

令和2年度 胃がんリスク検診(ABC 検診)結果について

(人数は令和4年3月18日現在)

1 概要

胃がんリスク検診(ABC検診)は、血清ペプシノゲン値で萎縮性胃炎を診断し、血清抗体でヘリコバクターピロリ菌感染の有無を診断します。そして両方の値で将来胃がんになりやすい状態かどうかをA、B、C、Dの4段階に階層化する検診です。胃がんのリスクはA→B→C→Dの順で高くなります。対象者は胃がん検診(バリウムレントゲン撮影)を受ける41・46・51・56・61歳(令和3年3月31日現在)で希望する者です。

令和2年度は、リスク検診対象者341人中224人(受診率65.7%)が受診し、そのうち、B・C判定者は25人でした。

また、25人中16人の除菌が完了し、平成25年度の検診開始より約25人(5%)の胃がん発生を予防できたこととなります。(裏面参照)

平成25年度から胃がんリスク検診が開始され、令和2年度の対象者は2巡目になっており、受診希望者は減少しております。

2 胃がんリスク検査結果

リスク検診対象者341人中、224人が受診しています。リスク検診の受診率は65.7%を占めています。

A判定(ピロリ菌陰性、ペプシノゲン陰性) B判定(ピロリ菌陽性、ペプシノゲン陰性)
C判定(ピロリ菌陽性、ペプシノゲン陽性) D判定(ピロリ菌陰性、ペプシノゲン陽性)

	A判定	B判定	C判定	D判定	合計
判定群別数	199人	20人	5人	0人	224人
割合	88.9%	8.9%	2.2%	0%	

3 胃がんリスク検診精密検査受診状況

- (1) B、C、D判定は内視鏡検査による精密検査が必要です。対象者25人中22人(88%)の方が精密検査を受診しています。
- (2) 未受診者には、封書や電話による受診勧奨をしています。

	B判定	C判定	D判定	合計
判定群別数	20人	5人	0人	25人
精密検査受診者数	18人	4人		22人
受診率	90%	80%		88%

(裏面あり)

4 胃がんリスク検診精密検査受診結果

がん発見者は無し。

5 ピロリ菌除菌状況

- (1) A判定はピロリ菌(陰性)のため除菌治療の必要がありません。また、D判定は胃粘膜が萎縮してピロリ菌がほとんど棲めない状態のため、除菌の必要はありません。
- (2) ピロリ菌陽性者 25 人中、16 人 (64%) の方が除菌治療を完了しています。
- (3) 除菌必要者で除菌未完了の方には受診勧奨をしています。

	B判定	C判定	合計
判定群別数	20 人	5 人	25 人
除菌完了者数	12 人	4 人	16 人
除菌完了率	60%	80%	64%

6 これまでのピロリ菌除菌状況 (平成 25 年～令和 2 年)

平成 25～令和 2 年度のリスク検診の結果、B・C判定者 674 人中、490 人は除菌完了者。受診確認ができない方については、通知や電話で受診状況の確認に努めています。490 人の除菌が完了したことで、約 25 人 (5%) の胃がんの発生を予防できたこととなります。

※ 「検診対象者を 10 年間追跡したところ、ピロリ菌感染者のグループからは 5% の胃がん発見があったが、非感染者からは胃がんが発見されなかった。」(胃がんリスク検診 (ABC 検診) マニュアル改訂 2 版 p.12-14 (認定 NPO 法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構 編/鈴木 肇) より)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	合計
B・C判定者数	115 人	113 人	94 人	91 人	110 人	68 人	58 人	25 人	674 人
除菌完了者数	92 人	93 人	67 人	65 人	78 人	43 人	36 人	16 人	490 人
除菌完了率	80.0%	82.3%	71.3%	71.4%	70.9%	63.2%	62.1%	64.0%	72.7%

7 その他

精密検査結果は、検診の翌年度に検査機関からの報告や電話等による受診勧奨にて把握する場合があるため、発見されたがんの人数は翌年度末に確定することとなります。精密検査を受診したかを確認できない方については、電話にて確認を行うとともに、翌年度以降のがん検診の受診状況にて確認をしています。

平成 31 年度がん検診精密検査実施者のがん発見者数 (令和 3 年 決算資料より抜粋)

区分	胃がん	大腸がん	肺がん	前立腺がん	子宮頸がん	乳がん	合計
要精密者数	282 人	419 人	114 人	137 人	43 人	99 人	1,094 人
がん発見者	1 人	5 人	3 人	10 人	0 人	15 人	34 人

8 7/11の決算監査で指摘のあったこと

令和3年度の胃がん検診で胃がんの見つかった方2人は、いずれも70歳以上であり、胃がんリスク検診対象外であった。(胃がんリスク検診の対象は61歳まで)

	胃がん検診の受診履歴	リスク検診の有無
70歳	H27、H28、H29、H30、R1、R3	無(対象年齢外のため)
74歳	H28、H29、H30、R1、R2、R3	無(対象年齢外のため)

《事項別明細》

○ 不用額調書のNo.10の部分、事項別明細と数値が異なるが、その理由は。

【答】母子保健事業費 報償費

しあわせ推進課分との合算分を記載し忘れしました。

別添資料1のとおり

《主要事業の概要》

○ 胃がん検診 (P.102 ウ (ア) a) のがん2人は、リスク検診を行っている人なのか。がんについて、これだけ抑えているということを整理してほしい。(P102)

【答】令和3年度の胃がん検診で胃がんの見つかった方2人は、いずれも70歳以上であり、胃がんリスク検診対象外であった。(胃がんリスク検診の対象は61歳まで)

	胃がん検診の受診履歴	リスク検診の有無
70歳	H27、H28、H29、H30、R1、R3	無 (対象年齢外のため)
74歳	H28、H29、H30、R1、R2、R3	無 (対象年齢外のため)

○ 袋井市はがんが少ないのか。リスク検診のR3の推移について教えてほしい。

【答】別添資料2のとおり

○ 不妊治療の効果は。治療によってどのくらい妊娠につながっているのか。

【答】別添資料3のとおり

○ 予防接種健康被害調査委員会で3件が審議されているがどのような内容か。

新型コロナワクチン接種が原因で死亡した事例はあるのか。また、ワクチン接種との因果関係はあったのか。(P105)

【答】審議した3件のうち1件が死亡事例であるが、既往歴のある方でもあったため、調査委員会では「新型コロナワクチン接種との因果関係が否定しきれない」との調査結果を付して国に進達している。なお、残りの2件についても審議の結果、同意見を付して進達している。詳細は別添資料4のとおり